

力御方内中

沖繩縣下清國福州下間敷
在スル無人島、國標建設
儀、付沖繩縣指令件
右件面防方也
明治十八年三月八日

内閣書記官長



太政大臣爵三條實美殿
左大臣熾仁親王殿
參議伯爵大木喬任殿
參議伯爵伊藤博文殿
參議伯爵山縣有朋殿
參議伯爵西鄉從道殿
參議伯爵川村純義殿
參議伯爵井上馨殿
參議伯爵山田顯義殿
參議伯爵松方正義殿
參議伯爵大山巖殿
參議子爵福岡孝弟殿
參議伯爵佐永高行殿

十

秘和一二八号内

無人島一國標建設之儀ニ付内申
神繩縣ト清國福州トノ間ニ散在セル
魚釣島外二嶋踏查ノ儀ニ付別紙寫ノ
通同縣令ヨリ上申候處國標建設ノ儀
ハ清國ニ交渉ニ彼是都合ニ有之候ニ
付目下見合セ候方可然ト相考候間外
務卿ト協議ノ上其旨同縣一致指令候
條此段及内申候也

明治六年十二月五日 内務卿伯爵山縣有朋

太政大臣公爵三條實美殿

乙四〇

管下無人島ノ儀ニ付、魚テ御下余ノ次第モ有
之取調為致、處今般別紙之通復、余書差出、
該島國標建設ノ儀ハ嘗テ伺置、茲通清國ト關係
ナキニシモ、アラス萬一不都合ヲ生シ、其テハ不相濟
ニ付、如何取計可然哉、至急何分ノ御指揮奉
仰、也。

明治十八年十一月廿四日

沖繩縣令西村捨三

外務卿伯爵井上 馨殿
内務卿伯爵山縣有朋殿

魚釣島外二島巡視取調概略

魚釣島久場島及久米赤島實地視察、御内命ヲ奉レ
去十月廿二日本縣雇漁船出雲丸ニ乗組宮古石垣入
表諸島ヲ經テ本月一日無恙同行、十等属久苗彦八
警部補神尾直敏御用掛藤田千次巡查伊東祐一同柳
田弥一郎ト共ニ帰港セリ依而談視察ニ係ル取調概
略左ニ開陳ス

魚釣島

十月廿九日午後第四時入表島船浮港抜錨針ヲ西北
ニ取り進航シ翌三十日午前四時過東雲棚引テ旭未
夕出テ船室ハ尚黑白ヲ赤セサレ氏濤波ハ残月ノ
為ニ明光ヲ放シ、際本船ノ前面數海里ノ隔ニ於テ

此島トシテ聳タルモノアリ是則チ魚釣島ナリ同ハ
時端船ニ乗シ其西岸ニ上陸シテ周囲及内部ヲ踏査
セント欲スレド頗ル峻険ナルヲ以テ容易ニ登ルコ
能ハス沿岸ハ又巨巖大石縦横ニアリ且ツ往々潮水
ノ嵩崖ニ注キ入ルアリテ歩行自由ナラス故ニ漸ク
其南西ノ海濱ヲ跋涉シテ全島ヲ相スルニ此島嶼之
周囲ハ恐ク三里ヲ超ハサルヘレ而シテ内部ハ巨大ノ
岩石ヨリ成立満面「コバ」樹、可且、榕、藤、等大東島ノ如ク
沖繩本島ト同種ノ雜草木ヲ以テ蔽ヒ間々溪間ヨリ
清水流ルレド其量多クラス平原ナキヲ以テ耕地ニ
乏シ濱海水族ニ富ムヲ認ムレド前線ノ地勢ナルガ
故ニ目下農漁ノ兩業ヲ営ムニ便ナラス然レド其土
石ヲ察スルニ稍ヤ入表群島中内離島ノ組織ニ類シ

テ只石層ノ大ナルヲ覓フルノニ依是考之ハ或ハ煤炭
又鉄鑛ヲ包含セシモノニアラサル乎若シ果シテ之
アルニ於テハ誠ニ貴重ノ島嶼ト言ハサルヘケラス
御參考トシテ携帶セシニ三ノ石類ニ説明ヲ附シ左
ニ列記ス

第一

是ハ赤砂状ノ土中ニ著シキ層ヲ成シタルモノ也

第二

是ハ渣滓状ノ石層中所々ニ粘着セルモノ也

第三

是ハ砂ヨリ変性セシ巨大ノ石層中ニ粘着セルモ
也

第四

是ハ石花石ナリ此類最モ海濱ニ多シ、各種アリ就
中色鮮明ナルヲ撰ビレナリ

第五

是ハ輕石ナレハ無論火山性ノモノトス然レモ此
ハ他ヨリ漂着セシモノト察セラレ數甚タ僅々ナ
レハナリ

第六

是ハ船釘ナリ何時カ船舶ノ漂流シテ木材ハ既ニ
朽チ釘ノミ残リタルモノト見ハ今ハ酸化シテ海
濱ノ岩石ニ凝結ス其數甚タ多シ亦怪ムヘシ

該島ハ本邦ト清國トノ間ニ散在セルヲ以テ所謂日
本文那海ノ航路ナリ故ニ今モ各種ノ漂流物アリ則
千小官等ノ目撃セシ物ハ或ハ琉球船ト覺レキ船板

帆檣或ハ竹木或ハ海綿漁具

竹ニテ製シタル
等様、モノアリ

等是ナリ就中

最モ目新ク感シタルハ長貳間半許幅四尺許ノ傳馬
船ノ漂着セシモノナリ形甚タ奇ニシテ曾テ見聞セ
サルモノナレハ之ヲ出雲九条組人ニ問フニ曰ク支
那ノ通船ナリト答ヘリ

島地素ヨリ人蹟無之樹木ハ前陳ノ如ク繁茂ナレモ

大木ハ更ニナレ野禽ニハ鴉、鷹、

白露ノ候ナレハ本品ト
同レク渡リタルモノト見ユ

鶯、鶇、目白、

鳩等ニシテ海禽ノ最モ多キハ信天翁トス此鳥魚釣

島ノ西南濱少ク白砂ヲ吹寄セタル溪間ニ至ルノ間
地色ヲ見サルマテニ群集ス實ニ數萬ヲ以テ算スヘ
ク而シテ皆砂或ハ草葉ヲ集メテ巢トナシ雌ハ卵ヲ
抱キ雄ハ之ヲ保護シ又蒼ツカ如シ此鳥和訓アホウ
ドリ又トウクロウ又バカドリ等ノ名アリ素ヨリ無

人島ニ棲息セルヲ以テ曾テ人ヲ恐レス小官等共ニ
語テ曰ク人ヲ恐レサレハ宜ク生捕トナスヘシト各
先ヲ争フテ進ミ其頸ヲ握ル大々容易ナリ或ハ兩手
ニ攫シ或ハ翅ヲ結テ是ヲ縛スルアリ或ハ右手ニ三
羽左手ニ二羽ヲ攫テ以テ揚々得色或ハ卵ヲ拾フ等
各自思々ニ生捕或ハ撲殺射殺拾卵等我ヲ忘レテ為
セトモ更ニ飛去スルヲナケレハ暫時数十羽数百卵
ヲ得タリ則チ携帶シ以テ高覧ニ供セシモノ是ナリ
此島海禽中最モ大ナルモノニシテ量大凡拾斤ニ内
外ス嗅氣アレハ肉ハ食料ニ過スト云今書ニ就テ調
フルニ *Diomedea* 属ニシテ英語ノ *Shearwater* ト称スル
モノナルヘシ蝙蝠ノ大ナル者ハ大東島等ニ均ク棲
息スト想像スレハ獸類ハ別ニ居ラザルヘシ

此島ハ曩ニ大城永保ニ就キ取調今実地踏査ノ上猶
英國出板ノ日本台湾間ノ海圖ニ照スニ彼 *Shearwater*
ナル者ニ相当ル而シテ入表群島中外離島西端ヨリ
八拾三海里トス故ニ台湾ノ東北端ヲ去ル大凡百海
里餘東沙島ヲ東ニ去ル大凡貳百拾四海里餘ナルハ
シ其 *Shearwater* ヲ以テ久米赤島ニ当テタルハ全ク誤
ニテ久米赤島ハ *Palmyra Atoll* ニ當リ一礁ナルノミ *Pinnacles*
ヲ以テ久場島ニ當タルモ亦誤ニテ「ピンナツクル」ナル
語ハ項ト言フ義ニシテ魚釣群島中六礁ノ最モ此ニ立
セシヲ言フモノナリ依而彼是其誤ヲ正サンニ魚釣
島ハ *Shearwater* 久場島ハ *Palmyra Atoll* 久米赤島ハ *Pinnacles*
ナルヘシ
余ハ石垣島ヨリ鶏壺番ヲ携帶シテ魚釣島ニ放シ以

テ将来ノ繁殖否ヲ試ム復他日ノ證ヲ残サント欲ス
ルノミ

久場島 附久米赤島

同日午后二時魚釣島ヲ謝シ久場島ニ向テ進航暫ク
シテ其沿岸ニ接ス本島ハ魚釣島ノ東北十六海里ヲ
隔テアリ先ツ上陸踏査セシト欲スレモ惜ラクハ日
ハ西山ニ落ントシ時恰モ東北ノ風ヲ起シ倍ス強大
ナラントス素ヨリ港湾ハナレ風ヲ避クルヲ能ハス
随而端艇ヲ下スヲ得ス乍遺憾傍觀ニ止ム依テ先
其形状ヲ言ハンニ山ハ魚釣島ヨリ卑ケレモ同シク
巨巖大石ヨリ成立タル島ニシテ禽類樹木モ異ナル
ヲナレト認ラル、ナリ然レモ少ク小ナルヲ以テ周囲
恐クニ里ニ滿タサルハレ是ヨリ帰路久米赤島ヲ見

ンヲ航長ニ約シ進航セシニ風ハ愈ヨ強クヲ加ハ
夜ハ暗黒ニシテ終ニ瞭然見ルヲ能ハナリシハ甚タ
遺憾トス然レモ久米赤島ハ到底洋中ノ一礁ニ過キ
サレハ農漁業ヲ營シ或ハ将来植民等ヲ為スノ念ハ
無カルヘシ幸ニ自今後先島航海ノ途次穏波ノ節実
地ノ目撃ヲ期スルニアル耳

以上我沖繩近海ニシテ古来其在ヲ見認テ未タ航海
ヲ為サス他日植民スハキヤ否ノ考按ヲ貯テ今日ニ
及ビシ島嶼ハ先般踏査ヲ了セシ南北大東島ト共ニ
五トス故ニ遠略ノ御計画ハ先ツ右ニテ一段落ニ似
タリト虽モ海軍水路局第十七号ノ海圖ニ採レハ宮
古島ノ南方大凡廿海里ヲ隔テ、イギマ島ト称シ長
サ凡五海里幅ニ海里位ニシテハ重山ノ小嶺島ニ近トモ

ノヲ載セテ曰ク「イビ」氏ハ此島ノ探索ニカヲ尽セシ
ガ遂ニ見得サリレト云フアリ又英國出版ノ日本
台湾間ノ海圖ニモ *Shima (Daitoku)* ト記シ以テ其有
無疑ノ間ニ置ケリ而シテ今回ハ重山島ニ到リ土人
ノ言フ所ニ據レハ往昔波照間島ノ一村氏舉テ其南
方ノ一島嶼ニ移轉セリト其有無判然セサレ氏今ニ
之ヲ南波照間島ト称シテ其子孫ノ連綿タル事ヲ信
シテ疑ハスト云フ以上ノ二島ハ他日御探求可相成可
然哉ニ奉存候

右今回御内命ニ據リ魚釣島外ニ島実地踏査ノ概略
並ニ見取略圖相添謹而奉復命候頓首再拜

明治十八年十一月四日

沖繩縣五等属石澤兵吾

沖繩縣令西村捨三殿代理

沖繩縣大書記官森長義殿

別冊魚釣、久場、久米赤島回航報告書進達仕候也

出雲丸船長

明治十八年十一月二日

林 鶴 松

沖繩縣大書記官森長義殿

日本勸業會社出雲丸船長

林 鶴 松

魚釣、久場、久米赤島回航報告書

魚釣、久場、久米赤島回航報告書

右諸島ハ屢々外船モ枉航シ其ノ景状ハ諸海路誌ニ詳悉セルヲ以テ今マ時ニ報告ヲ要スルモノナレ諸フ左ニ海路誌ノ記スル要旨ト聊カ実地験歴セシトコロヲ舉ケン

本船ハ初メ魚釣島ノ西岸ニ航着シ其ノ沿岸三四ケーブルノ地ニ屢々測鉛ヲ試ミタルニ海底極メテ深ク且ツ其ノ浅深一ナラス四十乃至五十尋ニレテ更ニ錨ス可キ地アルヲ見ス

魚釣群島ハ一島六礁ニ成リ其ノ最大ナルモノハ魚釣島ニレテ六礁ハ其ノ西岸凡ソ五六里内ニ併列シ礁脈ノ水面下ニ連絡スルカ如ク六礁

ノ大ナルモノヲ四ツクル礁ト稱シ其ノ形
狀絶奇ニシテ四錐形ヲ為シ空中ニ突出セリ右
ピンナツクルト本島間ノ海峡ハ深サ十二三尋
ニシテ自在ニ通航スルヲ得唯潮流ノ極メテ速
カナルヲ以テ恐クハ帆船ノ能ク通過ス可キ處
ニ非ラス

魚釣島ノ西北西岸ハ岬岸屹立シ其高サ千 百
八十尺ニシテ漸ク其ノ東岸ニ傾下シ遠ク之ヲ
望メハ水面上ニ直角三角形ヲ為セリ本島ハ極
メテ清水ニ富ミ其ノ東岸清流ノ横流スルヲ認
メタリ海路誌ニ據レハ其ノ沿岸ニ川魚ノ住ス
ルヲ見タリト本島ハ那霸河口三重城ヲ距ル西
七度南二百三十海里ニ在リ

久場島ハ魚釣島ノ北東十六海里ニ在リ海中ニ
屹立シテ沿岸皆サ六十尺ニ内外シ其ノ絶頂ハ
六百尺ナリ本島モ魚釣島ニ同シク更ニ船舶ヲ
寄泊スハキノ地ナシ

右二島ハ共に皆石灰石ニ成リ暖地普通樹草
ノ石間ニ茂生スルモ嘗テ有用ノ材梁ナリ其ノ
魚釣島ノ各礁ノ如キハ僅カニ海草ノ繁茂スル
ノミ更ニ樹木アルヲ見ス特ニ海島ノ群集スル
ハ各礁島極メテ夥シク魚釣島ノ如キノ清流
ニ富ムモ其ノ地味恐クハ人住ニ適スルモノニ
非ラス要スルニ右諸島ハ天ノ海鳥ニ其ノ住所
ヲ賦與シタルモノト謂フモ可ナリ

本船ハ久場島ヨリ慶良間峽ニ直航セシヲ以テ

途上久米赤島ヲ認メント欲シ之ニ接航セシモ
適マ夜半之ヲ航過シ當時殊ニ曇天暗黒ニシテ
之ヲ實驗スルヲ得サリシハ誠ニ遺憾ナリ海路
誌ニ據レハ本島ハ一岩礁ニ過キスレテ其ノ位
地東至百廿四度廿四分北緯廿五度五十五分即
チ那霸三重城ヲ距ル西六度南百七十海里ニシ
テ四面岩岸屹立シテ其ノ高サ二百七十尺遠ク
之ヲ望メハ日本形船ノ装帆セシニ異ナラスト
本島ハ外船モ屢々之ヲ認メタルモ其ノ位地ヲ
報スル各々異ナリ蓋シ其ノ黒潮ノ中流ニ孤立
セルヲ以テ各船皆チ其ノ推測ヲ異ニシタルヤ
必セリ

秘本二六〇号内

魚釣島鑛石之儀ニ付内申

沖繩縣下魚釣嶋鑛石分拆成績書該縣
令西村捨三ヨリ差出候間為御参考書
類相添及内申候也

明治六年十月十六日

内務卿伯爵山縣有朋

太政大臣公爵三條實美殿

第四百七號

魚釣島鑛石之義ニ付上申

本月五日付ヲ以テ魚釣島外二島取調之義ニ付及
上申候付属書類復命書中ニ煤炭又ハ鉄鑛無ニ哉
云々疑團申述其後金石學者本縣三等教諭小
林義忠ヲレテ分析セシメ候處別紙ノ通製鉄用ニ
足ルヘキ旨ノ成績書ヲ添上申致候古ハ素ヨリ細密ノ
試験ニハ無之候得共先其定性ヲ認知シ得テ候
義ト存候間不取敢書類相添為御參考更此段
上申候也

明治十八年十二月廿一日

沖繩縣令西村捨三

内務卿伯爵山縣有朋殿

魚釣島鑛石之義ニ付上申

本月四日付ヲ以テ魚釣島外二島視察取調概略
呈上仕候文中魚釣島石層組織ニ就キ煤炭或ハ
鉄鑛ヲ含蓄セサル乎ノ疑ナキニアラサルヲ以テ
二三ノ石類ヲ携帯シ簡單ノ説明ヲ附シ以テ御
参考ニ供レタリキ然レモ素ヨリ数時間ノ視察
ニ止ルヲ以テ充分ノ踏査ヲ為ス能ハス随テ携
帶ノ石数モ只々其参考ニ供スルヲ得ヘキニ止
メタリシカ第二トナレ説明ヲ附シタルモノノ
ミ二個ヲ得タルヲ以テ御参考ニ供シ其筋へ御
送付相成候外ノ一ヲ本縣三等教諭小林義忠ニ交
付シ化學上ノ試験ヲ囑托セシニ教諭ハ直ニ之

ヲ分析シ以テ別紙ノ通其成績書ヲ送付セリ是
ニ依テ考フルニ該鑛ハ酸化鉄ニシテ製鉄用ニ足
ル事ハ判然ナレ氏視察ノ時限短少ナルヲ以テ
其鑛脈ノ大小ヲ確定スルヲ能ハス蓋シ大層ノ
存在セラルハ疑ヲ容レカルナリ願クハ他日更ニ
御取調相成可然ト奉存候依テ不取敢此段及上
申候也

明治十年二月十日

沖繩縣五等屬石澤兵吾

沖繩縣令西村捨三代理

沖繩縣大書記官森長義殿

拜啓陳ハ昨日御依頼ニ相成候鑛石本日試験致
シ候ハ酸化鉄ニシテ製鉄用ニ供スルニ足ルモノ
ナルノ成績ヲ得候間別紙成績書御廻シ申上候
委曲ハ後刻拜眉ノ上萬縷仕可ク候早

十三日

小林拜

石澤学兄

金石試験成績但レ外面暗灰色ナルモノ
乾道試験即チ前試験

(1) 上昇管中ニ熱スルニ香息ナレ是硫黄等ノ揮
發物ヲ含蓄セサルノ徴ナリ

(2) 木炭上ニ熱スルニ変状ナリ冷後黒変ス是鉄
等ノ存在ヲ証スルモノナリ

(3) 白金線端ニ造レル硼砂球ニ壺鉢ノ酒精燈外
焰ニ熱スルニ黄色トナリ内焰ニテ熱スルニ
黄綠色ヲ呈ス是鉄ノ存在ヲ豫報スルモノナ
リ

湿道試験即チ本試験

試物ヲ細末ノ是ニ汞ヲ注シ火ニ上セテ熱ス
ルニ漸次溶解シ少量ノ白色ナル不溶解物ヲ

残留ス是ニ於テ溶解分ト不溶解分トヲ區別
シ試験スルヲ左ノ如シ

甲(溶解分)

(1) 其一分ニ塩酸ヲ注キ酸性トナシ硫化水素瓦
斯ヲ通スルニ変化ナシ是レ銅汞鉛錫砒黃
金白金等ヲ含マザルノ徴ナリ

(2) 其一分ニ「アンモニヤ」レ塩化「アンモニヤ」及ヒ硫
化「アンモニヤ」ニエ「アンモニヤ」ヲ注クニ黒変ス是レ鉄等ノ存
在ヲ証スルモノナリ

鉄ノ存在ハ前試験ニ於テ豫知スル所ナレハ
爰ニ於テ確定試験ヲ行ハンカ爲メ黃血塩液
ヲ注ケハ青色ナル沈澱即チ「フェレンス」ヲ生シ
硫「シヤン」酸加里ヲ注ケハ血色ヲ顯ス是レ鉄

ノ確証ナリ

其他種々ノ試験ヲ施スト虽其他ノ金属ヲ檢
出セズ

乙(不溶解分)

此物ハ白色ニシ且ツ外觀甚ク硅酸ニ類似セル
ヲ以テ其硅酸ナランヲ豫知シ燐塩球ニ附
ケ酒精燈ニテ熱スルニ彼ノ硅酸ノ骨ナルモ
ノヲ生ズ是硅酸ノ証ナリ其他種々ノ試験ヲ
行フニ皆硅酸タルノ証ヲ呈セリ

前ノ結果ニヨレバ試物ハ鉄ト硅酸トヨリ成ル
モノナリ而シテ鉄ハ元素ノ形状ヲナシテ大氣中
ニ存在スル能ハザルモノナレバ此鉄ハ酸素ト
結合セルモノニシテ酸化鉄ト稱スベキモノニシ

酸ノ五量ヲ混在スルモノナリ

古ノ酸化鉄ハ百分中七十二ノ鉄分ヲ含蓄シ製
鉄用ノ最上ノ鑛物ナリ然レ氏手術中ノ損失ト
硫酸ヲ含蓄スルトノ二点ヨリ推測スルハ此
鉄物百目ヲ以テセバ凡ソ五十目ノ鉄ヲ得ベ
シ

古ハ元ヨリ草率ノ試験ノ結果ナレハ未タ以テ
完全ト云フベカラズ尚他日^充分ナル試験ヲ施
シ成績ヲ報スルヲマルベシ